

平成30年7月豪雨の 避難意識と行動に関する調査

■ 防災マーケティング研究チーム調査結果【速報】

平成30(2018)年7月28日時点 集計速報

県立広島大学 大学院 経営管理研究科
HBMS(Hiroshima Business and Management School)

アンケート調査概要

県立広島大学大学院経営管理研究科（通称HBMS）防災マーケティング研究チームは、株式会社サーベイリサーチセンターの協力のもと、この度の平成30年7月豪雨における避難意識や避難行動の調査を行った。当該調査は平成30年7月19日から20日にかけて、広島市内の成人男女1,000人のインターネットモニターに対して実施したものである。

調査期間	調査方法	回答数	有効回答数
平成30年7月19日(木)～ 平成30年7月20日(金)	WEBアンケート	1,000	871
設問項目			
(回答者属性) 性別	Q11) 避難の判断など		
(回答者属性) 年齢	Q12) 注意報・警報の認識		
Q1) 住所	Q13) 豪雨情報の収集源		
Q2) 家族形態	Q14) 特別警報と災害意識		
Q3) 居住形態	Q15) 特別警報を聞いての準備		
Q4) 住まいの立地	Q16) 特別警報後の避難の有無		
Q5) 雨の降り方	Q17) 避難場所		
Q6) 避難経験	Q18) 避難のきっかけ		
Q7) 被害の有無	Q19) 避難開始時刻		
Q8) 避難後の感想	Q20) 避難判断の是非		
Q9-1) 自然災害への恐怖(以前)	Q21) 避難しなかった理由		
Q9-2) 自然災害への恐怖(今回)	Q22) 被害の有無		
Q10) 日頃からの備え			



HIROSHIMA
BUSINESS AND
MANAGEMENT
SCHOOL

防災マーケティング研究チーム

江戸 克栄 [HBMS(教授)]

高田 禮榮 [HBMS/中電技術コンサルタント(株)]

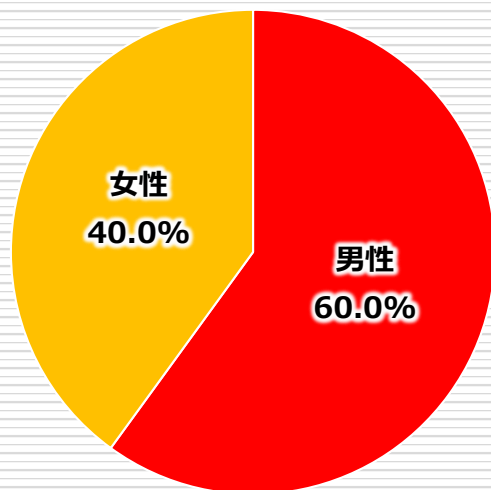
柘原 茂 [HBMS/広島市]

上垣 慎一 [HBMS/呉市]

藤本 健二 [(株)サーベイリサーチセンター]

性別

[性別、年齢はアンケート回答者属性です]



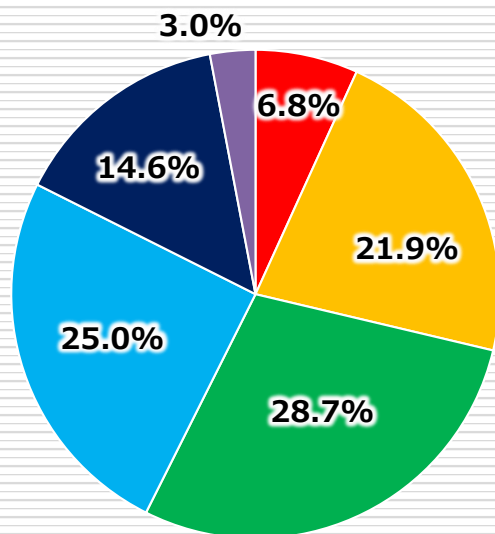
■男性の方が女性より20ポイント多くなっています。

全体	男性	女性
871	523	348
100.0%	60.0%	40.0%

年齢

■40代が28.7%と最も多く、次いで50代の25%となっています。
(回答者の平均年齢は47.24歳です。)

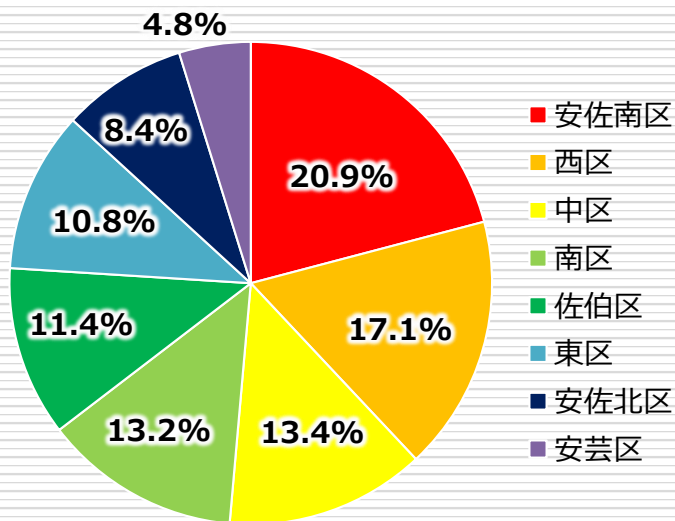
■若年層(20代・30代)では28.7%、中年層(40代・50代)では53.7%、高年層(60代・70代)では17.6%となっています。



- 20代
- 30代
- 40代
- 50代
- 60代
- 70代

全体	20代	30代	40代	50代	60代	70代	平均(歳)
871	59	191	250	218	127	26	47.24
100.0%	6.8%	21.9%	28.7%	25.0%	14.6%	3.0%	

Q 1) あなたのお住まいは？

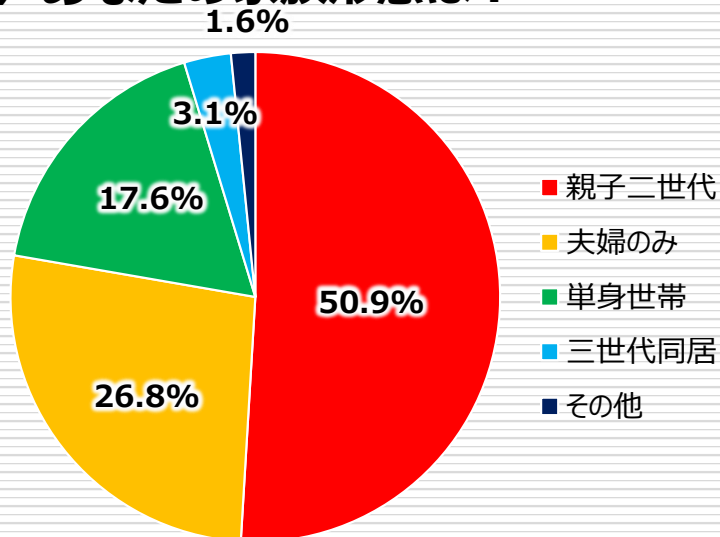


■ 安佐南区が20.9%と最も多く、次いで西区が17.1%となっています。

■ 区別での回答者割合と人口割合は概ね整合しており、大きなバラツキ・偏り等はありません。

全体	中区	東区	南区	西区	安佐南区	安佐北区	安芸区	佐伯区
871	117	94	115	149	182	73	42	99
100.0%	13.4%	10.8%	13.2%	17.1%	20.9%	8.4%	4.8%	11.4%

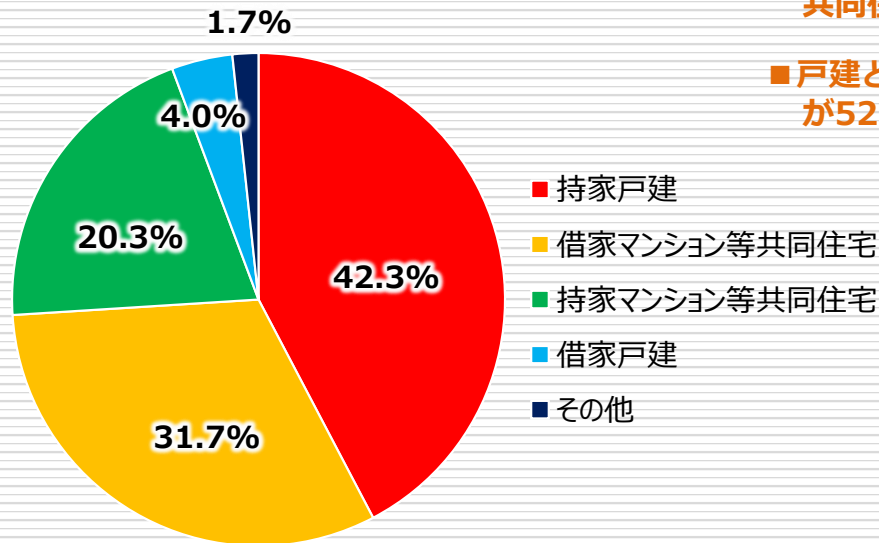
Q 2) あなたの家族形態は？



■ 親子二世帯が約半数の50.9%を占めており、次いで夫婦のみが26.8%となっています。

全体	単身世帯	夫婦のみ	親子二世帯	三世帯同居	その他
871	153	233	444	27	14
100.0%	17.6%	26.8%	51.0%	3.1%	1.6%

Q3) あなたの居住形態は？

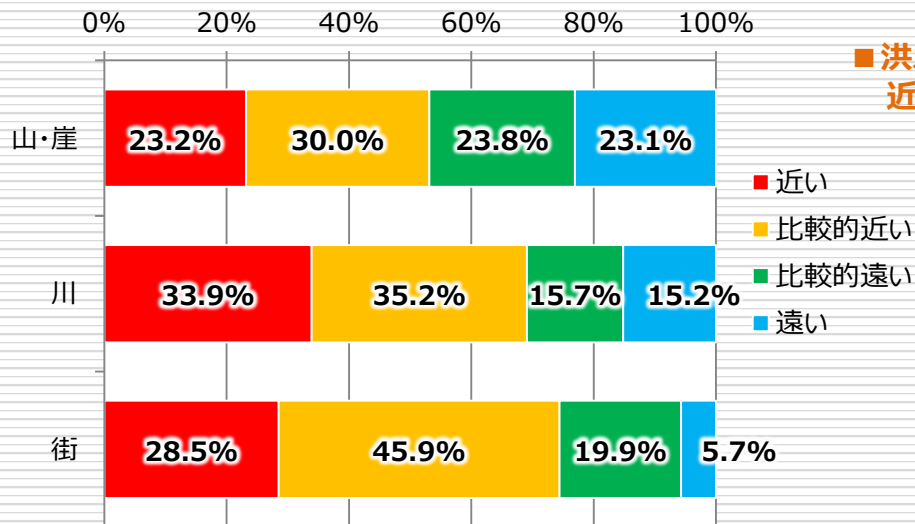


■ 持家戸建が最も多く42.3%、次いで、借家マンション等共同住宅が31.7%となっています。

■ 戸建とマンションの別では、戸建が46.3%、マンションが52.0%となっています。

	持家戸建	住家マンション等共同	借家戸建	借家マンション等共同	その他
全体	871	177	35	276	15
	100.0%	20.3%	4.0%	31.7%	1.7%

Q4) あなたのお住まいの立地は？



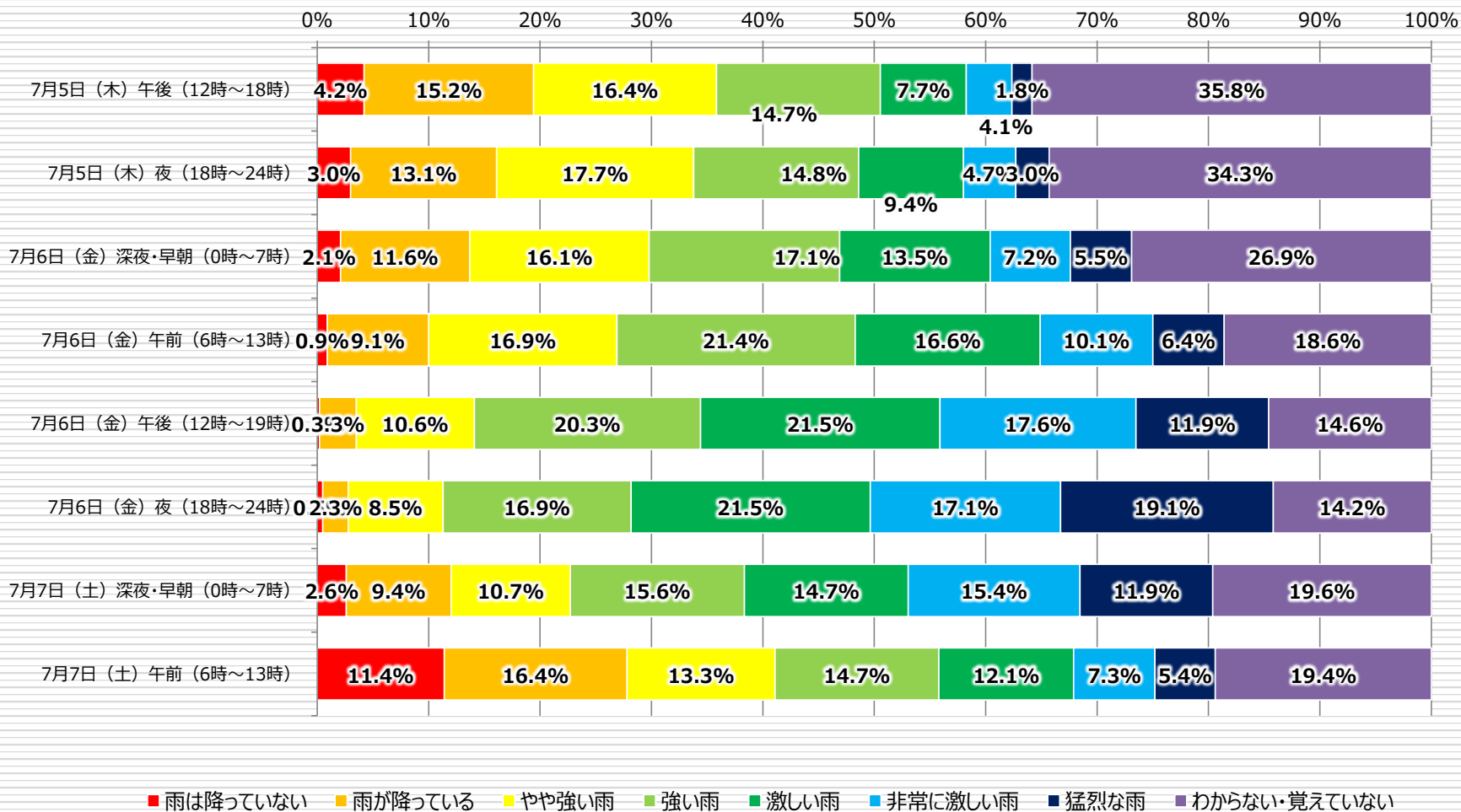
■ 土砂災害の恐れがある「山・崖」には53.2%が近い・比較的近いとなっています。

■ 洪水被害の恐れがある「川」には69.1%が近い・比較的近いとなっています。

	全体	近い	比較的近い	比較的遠い	遠い
山・崖	871	202	261	207	201
	100.0	23.2	30.0	23.8	23.1
川	871	295	307	137	132
	100.0	33.9	35.2	15.7	15.2
街	871	248	400	173	50
	100.0	28.5	45.9	19.9	5.7

Q5) 平成30年7月5日～7月7日にかけての雨の降り方はどうでしたか？

- 7月6日(金)18時～24時には、猛烈な雨（カサは役に立たない）を感じた方は19.1%にも及んでいます。
- 実態よりも、雨が強く降ったという印象を持っている方が多いようです。
- 7月5日（木）午後（平均9.25mm）の方が7月6日（金）午前（平均5.6mm）が強く雨が降っているにもかかわらず、記憶や印象にズレが生じています。



Q5) 平成30年7月5日～7月7日にかけての雨の降り方はどうでしたか？

	全 体	雨は降っていない	雨が降っている※1	やや強い雨※2	強い雨※3	激しい雨※4	非常に激しい雨※5	猛烈な雨※6	わからない・覚えていない
7月5日(木)午後(12時～18時)	871 100.0	37 4.2	132 15.2	143 16.4	128 14.7	67 7.7	36 4.1	16 1.8	312 35.8
7月5日(木)夜(18時～24時)	871 100.0	26 3.0	114 13.1	154 17.7	129 14.8	82 9.4	41 4.7	26 3.0	299 34.3
7月6日(金)深夜・早朝(0時～6時)	871 100.0	18 2.1	101 11.6	140 16.1	149 17.1	118 13.5	63 7.2	48 5.5	234 26.9
7月6日(金)午前(6時～12時)	871 100.0	8 0.9	79 9.1	147 16.9	186 21.4	145 16.6	88 10.1	56 6.4	162 18.6
7月6日(金)午後(12時～18時)	871 100.0	2 0.2	29 3.3	92 10.6	177 20.3	187 21.5	153 17.6	104 11.9	127 14.6
7月6日(金)夜(18時～24時)	871 100.0	4 0.5	20 2.3	74 8.5	147 16.9	187 21.5	149 17.1	166 19.1	124 14.2
7月7日(土)深夜・早朝(0時～6時)	871 100.0	23 2.6	82 9.4	93 10.7	136 15.6	128 14.7	134 15.4	104 11.9	171 19.6
7月7日(土)午前(6時～12時)	871 100.0	99 11.4	143 16.4	116 13.3	128 14.7	105 12.1	64 7.3	47 5.4	169 19.4

※1：雨が降っている ⇒カサをさせば濡れない、しとんと降っている雨

※2：やや強い雨 ⇒地面からの跳ね返りで足元がぬれる、ザーザーと降る雨

※3：強い雨 ⇒カサをさしてもぬれる、どしゃ降りの雨

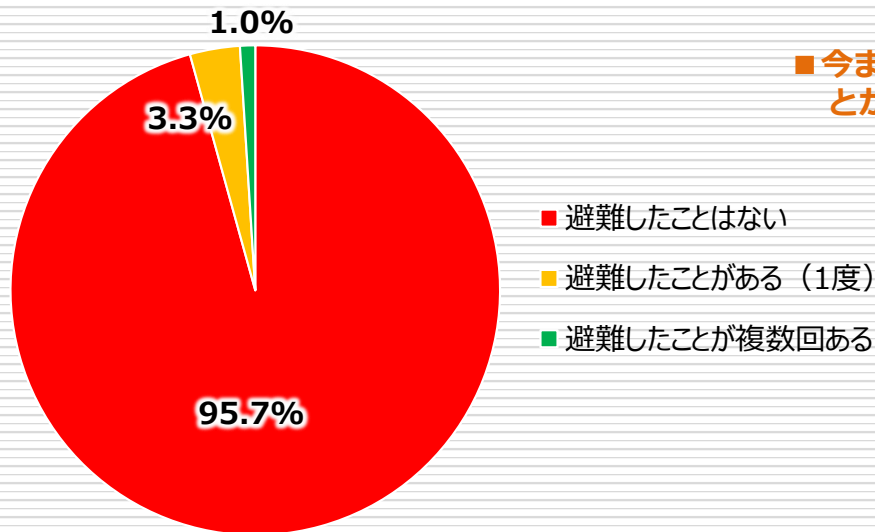
※4：激しい雨 ⇒カサをさしてもぬれる、バケツをひっくり返したように降る雨

※5：非常に激しい雨 ⇒カサは役に立たない、滝のように降る(ゴーゴーと降り続く)雨

※6：猛烈な雨 ⇒カサは役に立たない、息苦しくなるような圧迫感がある雨



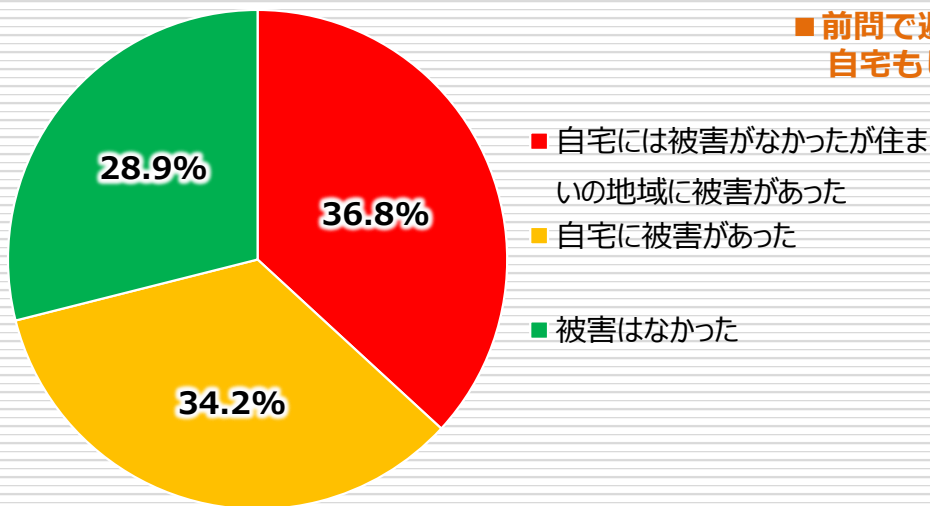
Q6) 今まで避難勧告、避難指示が出て避難したことは？



■ 今までの経験で、ほとんど（95.7%）の方が避難したことがないようです。

	避難したことはない	避難したことがある（1度）	避難したことが複数回ある
全体	871 100.0	833 95.6	29 3.3

Q7) 前問の状況において避難したことがある場合、お住いの地域に被害は？

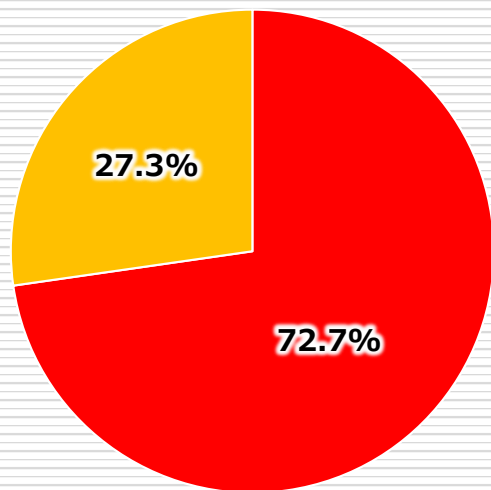


■ 前問で避難したことがある（4.3%）方のうち、71%が自宅もしくは地域で被災を経験されています。

	自宅に被害があった	自宅には被害がなかったが住みの地域に被害があった	被害はなかった
全体	13 34.2%	14 36.8%	11 28.9%

Q 8) 避難したことはあるが被害がなかった場合、どのように感じましたか？

- 前問で避難したことがあるが被害がなかった方は方のうち、72.7%が避難してよかったと感じています。
- 一方、被害がなかったので、避難する必要がなかった、いわゆる「空振り」を感じている方もおられます。



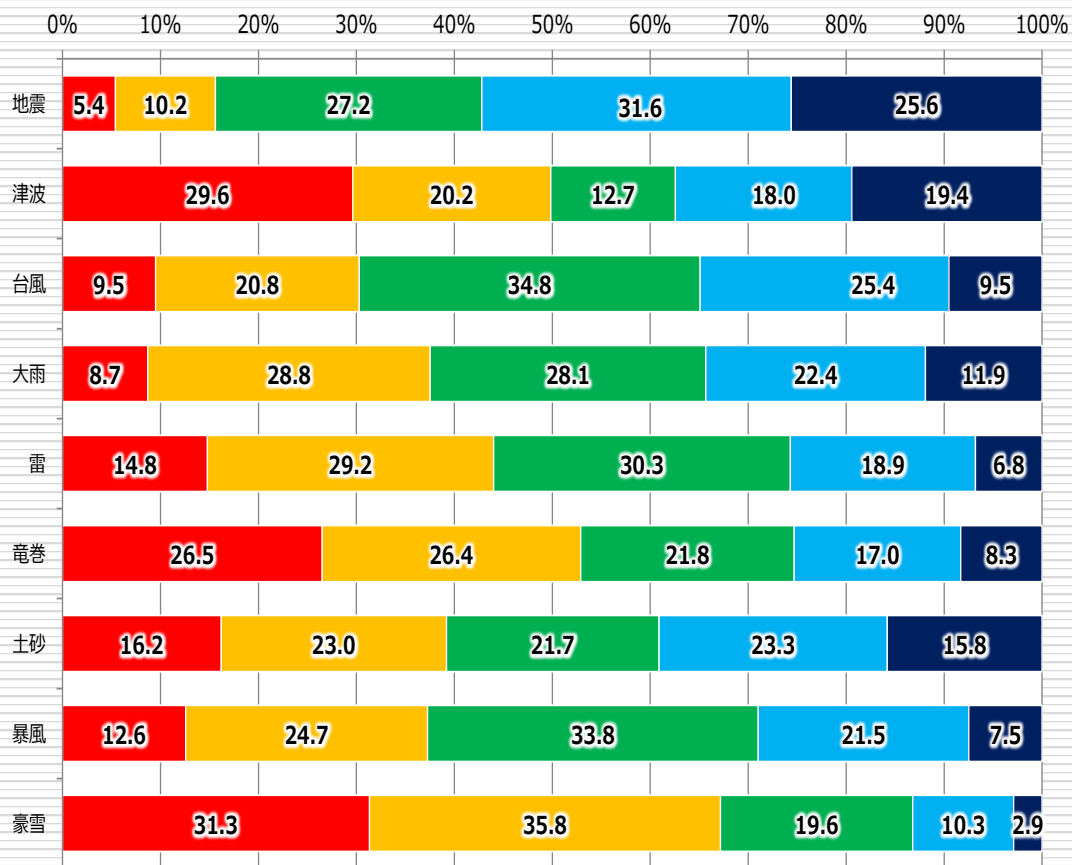
- 被害はなかったが、避難しておいてよかった (避難勧告・指示に従ってよかった)
- 被害がなかったため、避難する必要はなかった (避難勧告・指示に従う必要はなかった)

全体	必要はなかった (避難勧告・指示に従った)	被害がなかったため、避難する必要はなかった (避難勧告・指示に従った)	被害はなかったが、避難しておいてよかった (避難勧告・指示に従った)	その他
11	3	8	-	-
100.0%	27.3%	72.7%	-	-



Q9-1) 次の自然災害が「自分の命」にとってどの程度怖いと感じていましたか？※平成30年7月に発生した豪雨災害以前に感じていたことをお答えください。

■非常に怖かった・怖かったとするのは、「地震」(57.2%)、「土砂」(39.1%)、「津波」(37.4%)の順であり、この度の「大雨」は34.3%となっています。

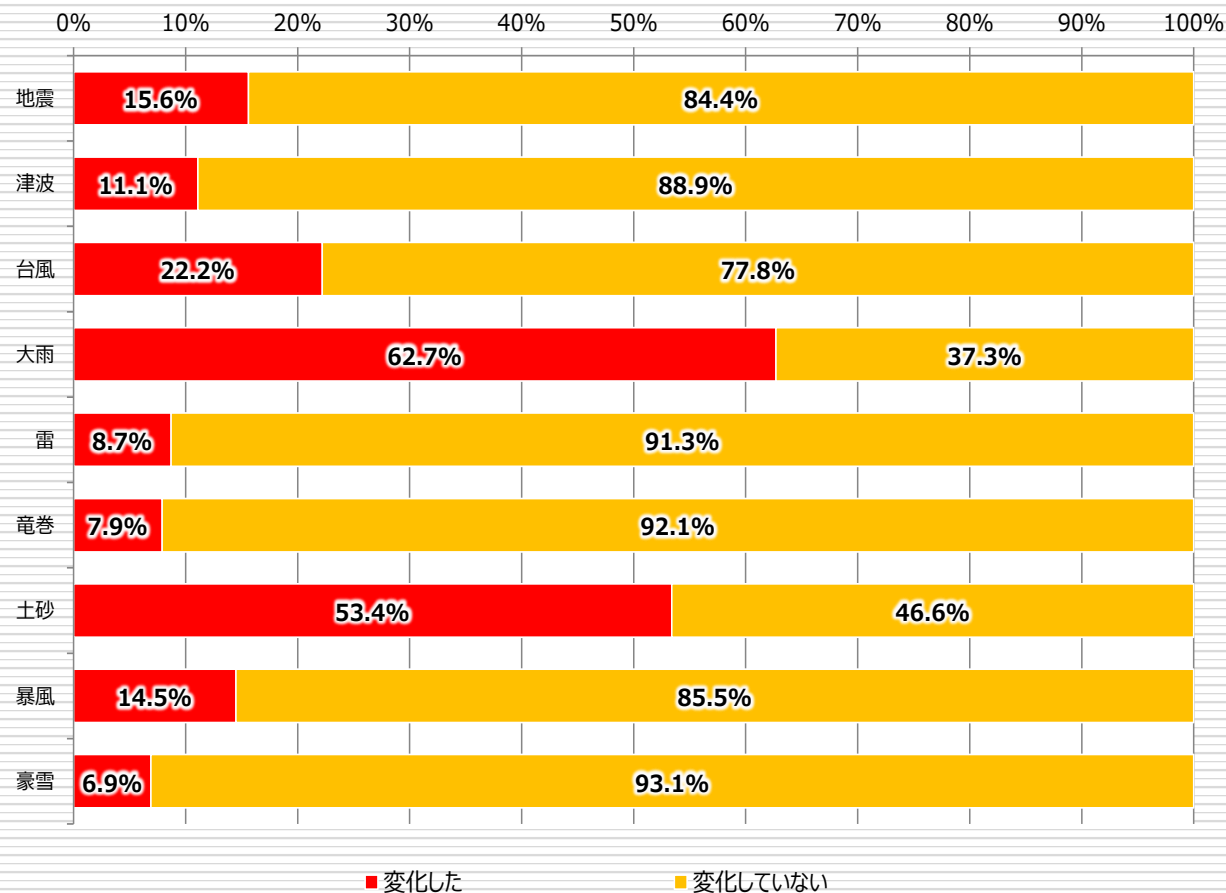


	全体	全く怖くなかった	あまり怖くなかった	少し怖かった	怖かった	非常に怖かった
地震	871 100.0	47 5.4	89 10.2	237 27.2	275 31.6	223 25.6
津波	871 100.0	258 29.6	176 20.2	111 12.7	157 18.0	169 19.4
台風	871 100.0	83 9.5	181 20.8	303 34.8	221 25.4	83 9.5
大雨	871 100.0	76 8.7	251 28.8	245 28.1	195 22.4	104 11.9
雷	871 100.0	129 14.8	254 29.2	264 30.3	165 18.9	59 6.8
竜巻	871 100.0	231 26.5	230 26.4	190 21.8	148 17.0	72 8.3
土砂	871 100.0	141 16.2	200 23.0	189 21.7	203 23.3	138 15.8
暴風	871 100.0	110 12.6	215 24.7	294 33.8	187 21.5	65 7.5
豪雪	871 100.0	273 31.3	312 35.8	171 19.6	90 10.3	25 2.9

■全く怖くなかった ■あまり怖くなかった ■少し怖かった ■怖かった ■非常に怖かった

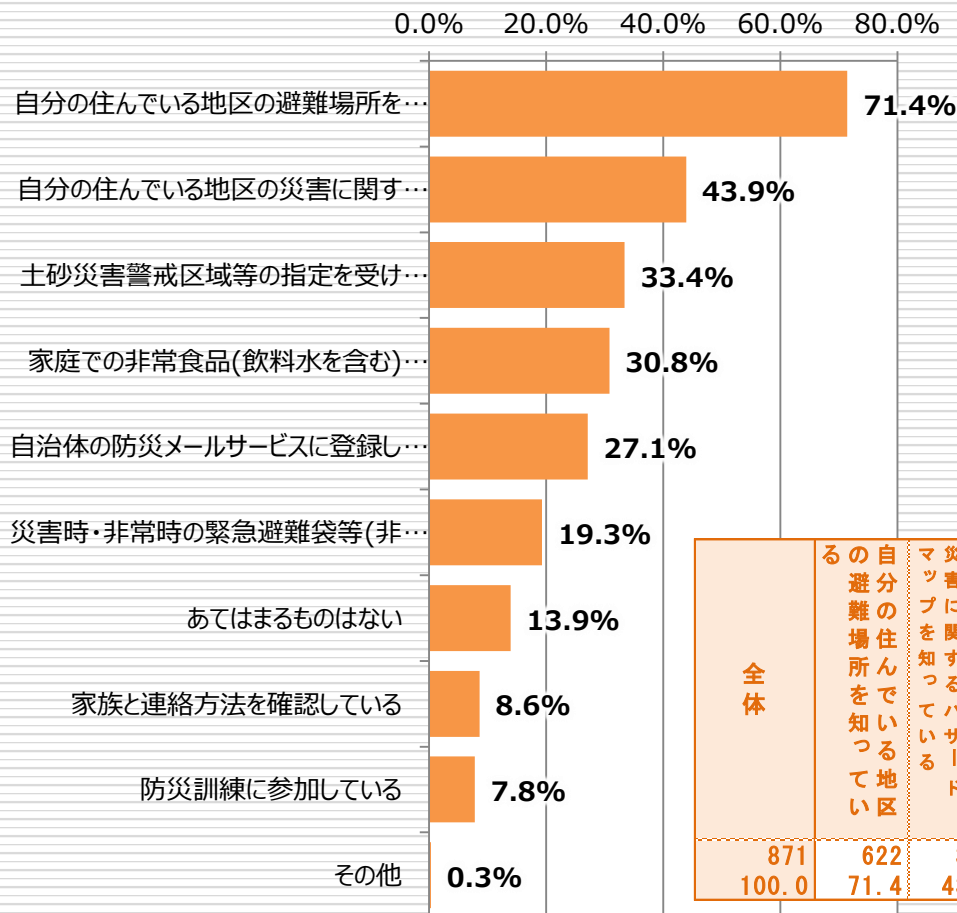
Q9-2) 平成30年7月に発生した豪雨災害を受けて、前問で回答した怖さは変化しましたか？

- 今回の豪雨災害を経験して、67.7%もの人が「大雨」に対する怖さが変化したと回答しています。
- 「大雨」の影響により発生する「土砂災害」に対しても53.4%もの人が怖さが変化したと回答しています。



	全 体	変 化 し た	変 化 し て い な い
地震	871 100.0	136 15.6	735 84.4
津波	871 100.0	97 11.1	774 88.9
台風	871 100.0	193 22.2	678 77.8
大雨	871 100.0	546 62.7	325 37.3
雷	871 100.0	76 8.7	795 91.3
竜巻	871 100.0	69 7.9	802 92.1
土砂	871 100.0	465 53.4	406 46.6
暴風	871 100.0	126 14.5	745 85.5
豪雪	871 100.0	60 6.9	811 93.1

Q10) あなたが日頃から知っているもの・準備していることなど該当するものをお答えください。(複数回答可)



■日頃からの備えとしては、「自分の住んでいる地区の避難所を知っている」が71.4%と最も多く、次いで、「自分の住んでいる地区の災害に関するハザードマップ」が43.9%となっています。

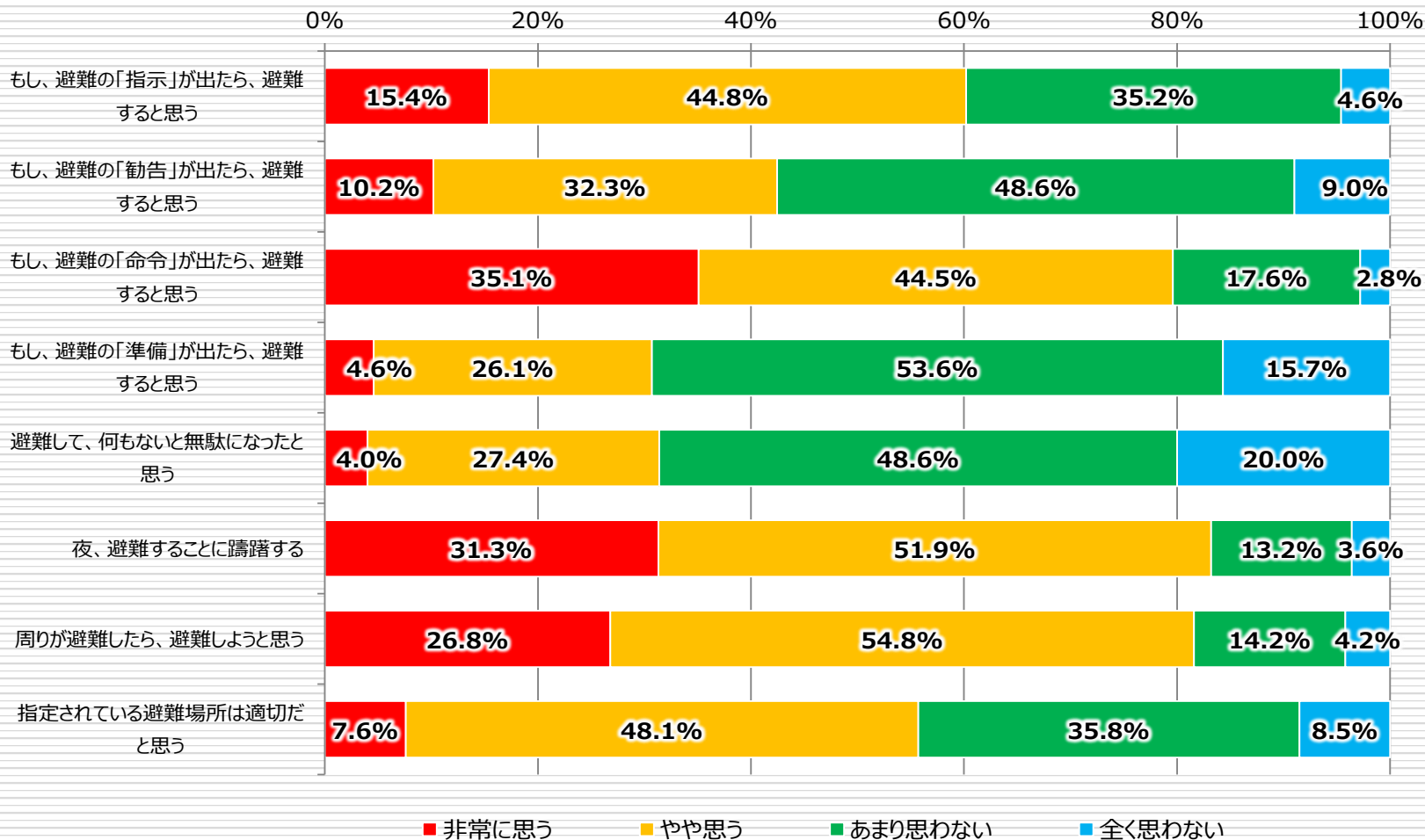
■一方、自治体の防災メールサービスへの登録(27.1%)や防災訓練への参加(7.8%)と低く、具体的な避難の判断や避難行動には課題がありそうです。

全体	自分の住んでいる地区の避難場所を知っている	自分の住んでいる地区の災害に関するハザードマップを知っている	土砂災害警戒区域等の指定を受けている	家庭での非常食品(飲料水を含む)などを備えている	自治体の防災メールサービスに登録している	災害時・非常時の緊急避難袋等(非常持ち出し品)の備えをしている	あてはまるものはない	家族と連絡方法を確認している	防災訓練に参加している	その他
871	622	382	291	268	236	168	121	75	68	3
100.0	71.4	43.9	33.4	30.8	27.1	19.3	13.9	8.6	7.8	0.3

Q 1 1) 避難に関するもので該当するものをそれぞれお答えください。

■ 実際には「避難勧告」⇒「避難指示」の順で危険度に応じて出されますが、回答では「命令」⇒「指示」⇒「勧告」⇒「準備」の順で非常に思うと回答しており、正しく認識されていないことが懸念されます。
 (実際には「避難命令」はありませんが、最も多い35.1%が非常に思うと回答しています。)

■ また、夜間の避難に対する抵抗感(避難を躊躇する)があることがうかがえます。

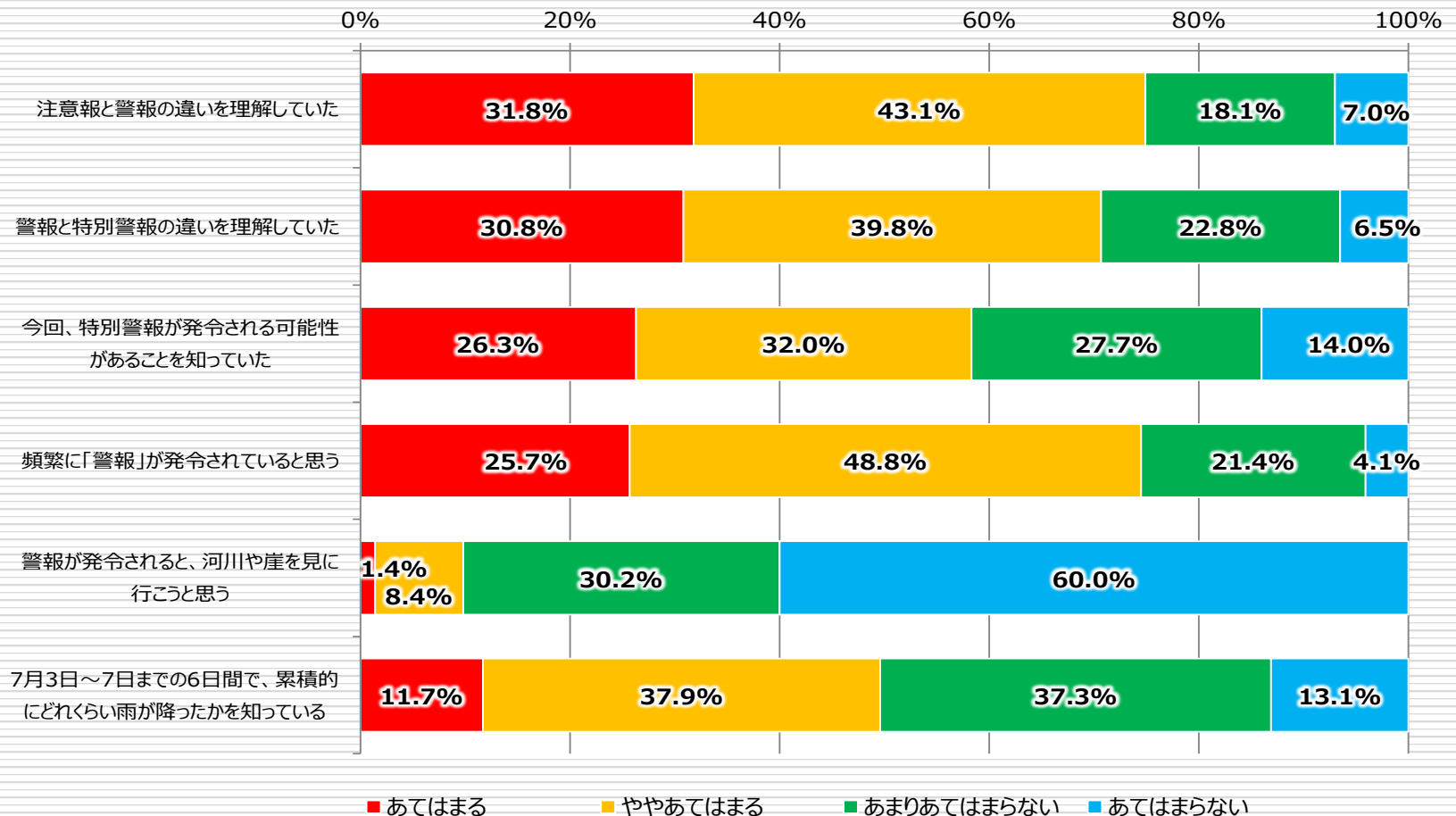


Q 1 1) 避難に関するもので該当するものをそれぞれお答えください。

	全 体	非 常 に 思 う	や や 思 う	あ ま り 思 わ な い	全 く 思 わ な い
もし、避難の「指示」が出たら、避難すると思う	871 100.0	134 15.4	390 44.8	307 35.2	40 4.6
もし、避難の「勧告」が出たら、避難すると思う	871 100.0	89 10.2	281 32.3	423 48.6	78 9.0
もし、避難の「命令」が出たら、避難すると思う	871 100.0	306 35.1	388 44.5	153 17.6	24 2.8
もし、避難の「準備」が出たら、避難すると思う	871 100.0	40 4.6	227 26.1	467 53.6	137 15.7
避難して、何もないと無駄になったと思う	871 100.0	35 4.0	239 27.4	423 48.6	174 20.0
夜、避難することに躊躇する	871 100.0	273 31.3	452 51.9	115 13.2	31 3.6
周りが避難したら、避難しようと思う	871 100.0	233 26.8	477 54.8	124 14.2	37 4.2
指定されている避難場所は適切だと思う	871 100.0	66 7.6	419 48.1	312 35.8	74 8.5

Q12) 気象庁が出している注意報・警報などについてお尋ねします。

- 注意報・警報・特別警報の違いについては、約70%程度の方が理解（あてはまる・ややあてはまると回答）しています。
- 一方、頻繁に「警報」が発令されていると感じている（あてはまる・ややあてはまると回答）人が74.5%おり、頻繁な発令に対しての慣れや危機意識の希薄化等が懸念されます。

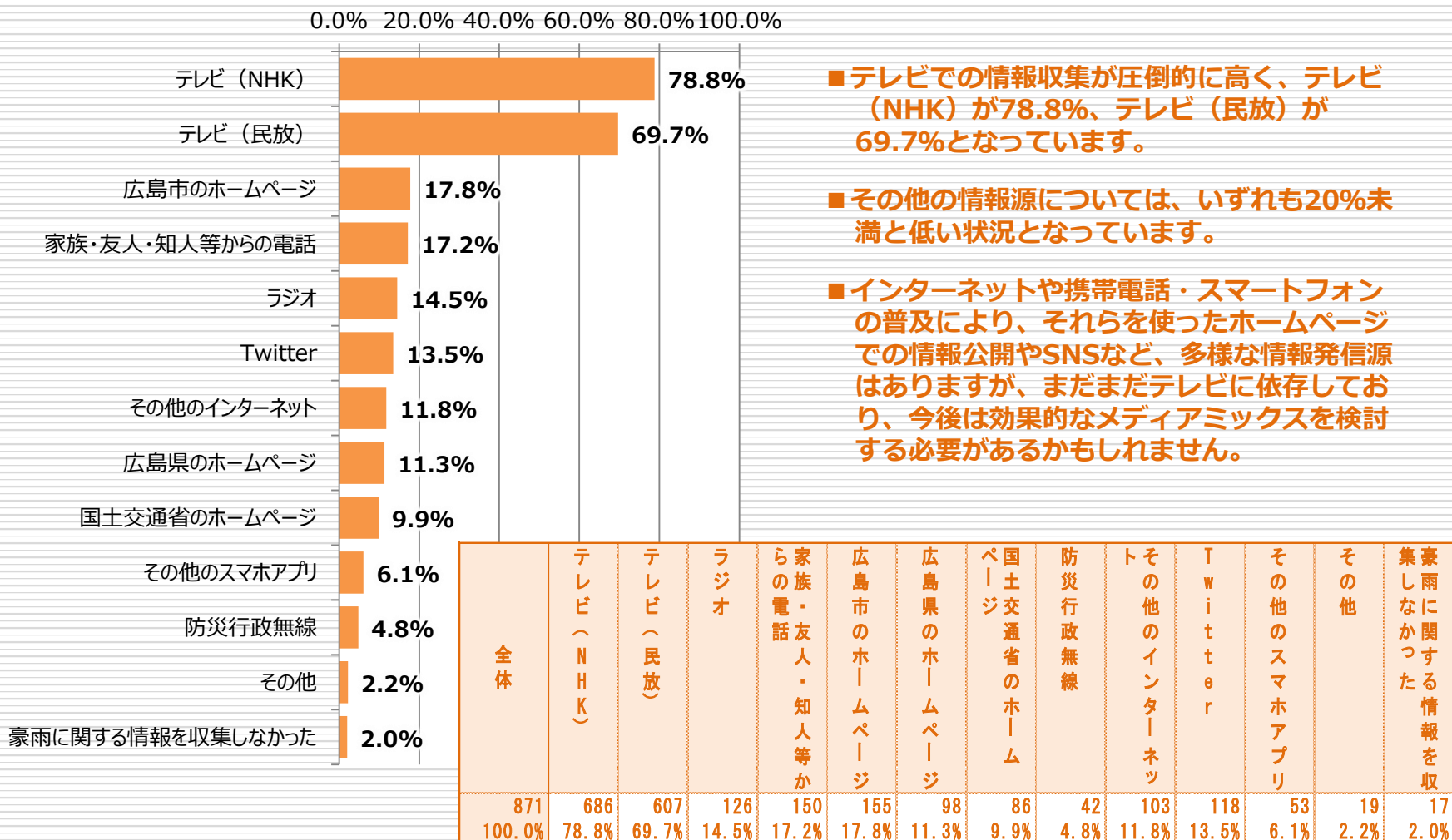


Q12) 気象庁が出している注意報・警報などについてお尋ねします。

	全体	あてはまる	ややあてはまる	あまりあてはまらない	あてはまらない
注意報と警報の違いを理解していた	871 100.0	277 31.8	375 43.1	158 18.1	61 7.0
警報と特別警報の違いを理解していた	871 100.0	268 30.8	347 39.8	199 22.8	57 6.5
今回、特別警報が発令される可能性があることを知っていた	871 100.0	229 26.3	279 32.0	241 27.7	122 14.0
頻繁に「警報」が発令されていると思う	871 100.0	224 25.7	425 48.8	186 21.4	36 4.1
警報が発令されると、河川や崖を見に行こうと思う	871 100.0	12 1.4	73 8.4	263 30.2	523 60.0
7月3日～7日までの5日間で、累積的にどれくらい雨が降ったかを知っている	871 100.0	102 11.7	330 37.9	325 37.3	114 13.1

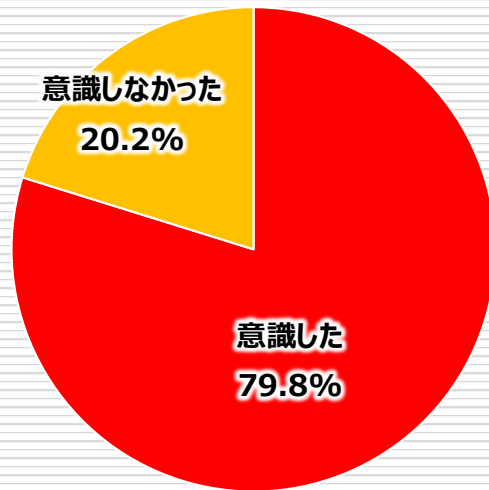


Q 1 3) 平成30年7月の豪雨についてお尋ねします。豪雨に関する情報を何で収集しましたか？



Q 1 4) 平成30年7月の豪雨についてお尋ねします。「これまでに経験したことのないような大雨（特別警報）」という情報を聞いたとき、災害を意識しましたか？

■「特別警報」を聞いて非常に多くの人（79.8%）が災害を意識しています。

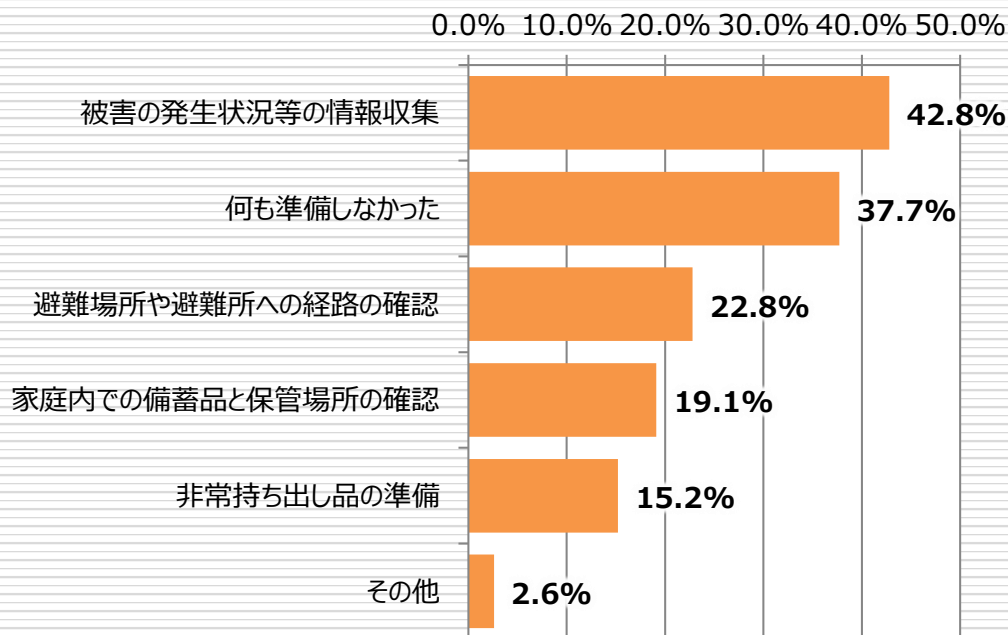


全体	意識した	意識しなかった
871	695	176
100.0%	79.8%	20.2%



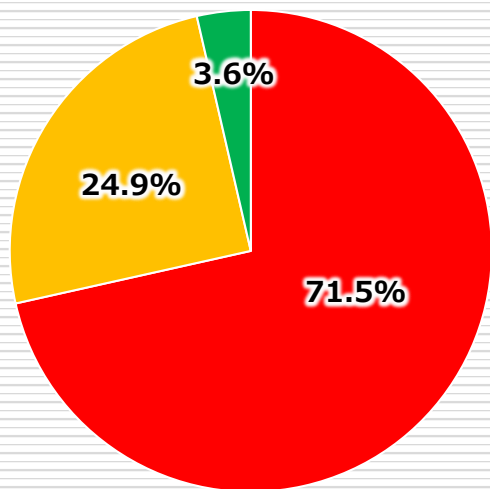
Q15) 平成30年7月の豪雨についてお尋ねします。「これまでに経験したことのないような大雨（特別警報）」という情報を聞いたとき、何か準備を行いましたか？（複数回答可）

- 「被害の発生状況等の情報収集」を行った人が42.8%と最も多くなっています。
- 一方、「何も準備しなかった」とする人が37.7%と2番目に多くっており、危機意識が薄いことが懸念されます。（自分に関係ないという正常性バイアスがはたらいたかどうか）



全体	経路の確認	避難場所や避難所への確認	家庭内での備蓄品と保管場所の確認	非常持ち出し品の準備	被害の発生状況等の情報収集	その他	何も準備しなかった
871	199	166	132	373	23	328	
100.0%	22.8%	19.1%	15.2%	42.8%	2.6%	37.7%	

Q16) 平成30年7月の豪雨についてお尋ねします。「これまでに経験したことのないような大雨（特別警報）」と聞いたとき、避難しましたか？

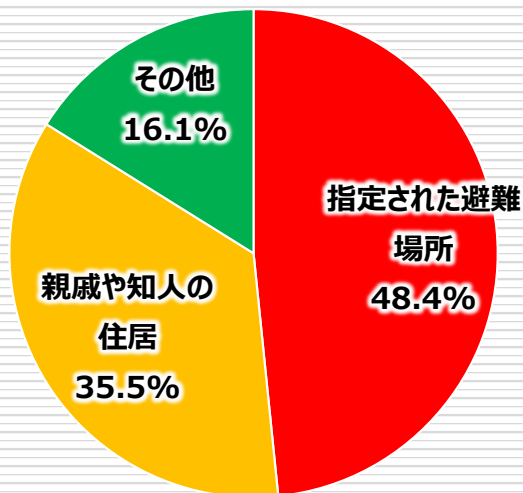


■「避難する必要はないと考え、しなかった」人が71.5%と最も多くなっています。

- 避難する必要はないと考え、しなかった
- 避難しようと検討したが、しなかった
- 避難した

	避難した	が、避難しようと検討したが、しなかった	避難する必要はないと考え、しなかった
全体	31	217	623
	3.6%	24.9%	71.5%

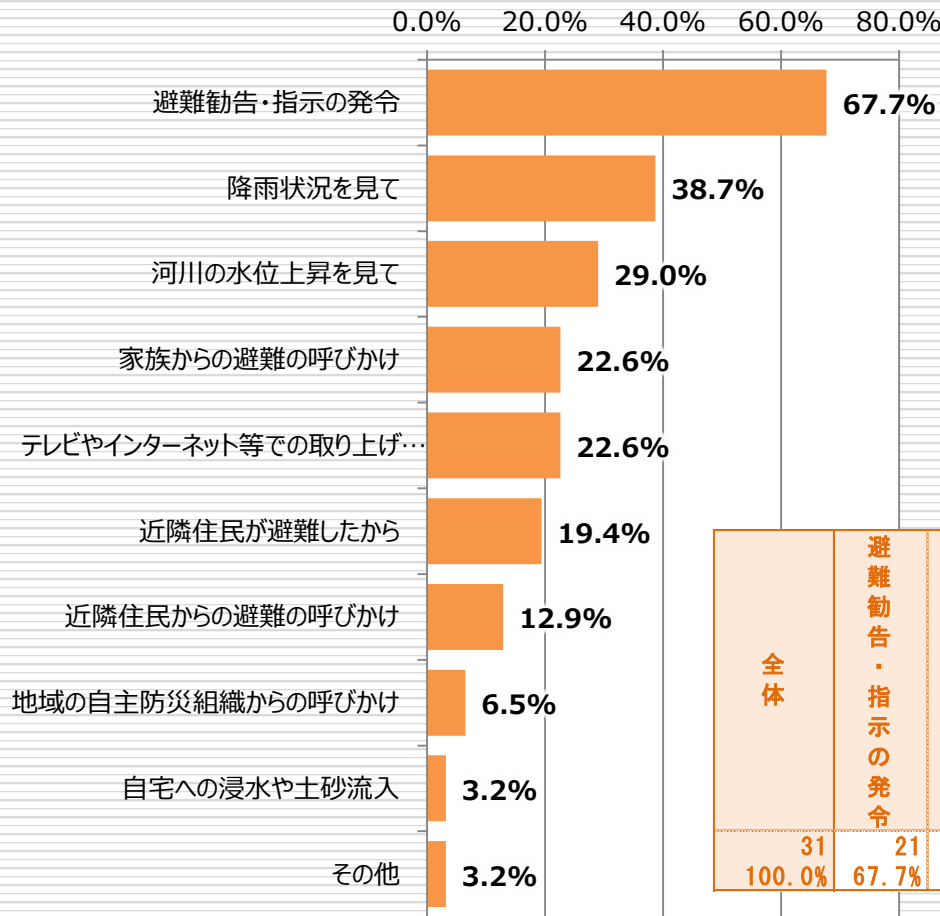
Q17) 前問で「避難した」と回答した方は、どこへ避難されましたか？



■前問で避難した人（3.6%）のうちで、避難した場所は「指定された避難場所」の人が48.4%と最も多くなっています。

	指定された避難場所	親戚や知人の住居	自宅の上階	その他
全体	15	11	-	5
	48.4%	35.5%	-	16.1%

Q18) 平成30年7月の豪雨についてお尋ねします。避難をするきっかけとなったのは何ですか？（複数回答可）

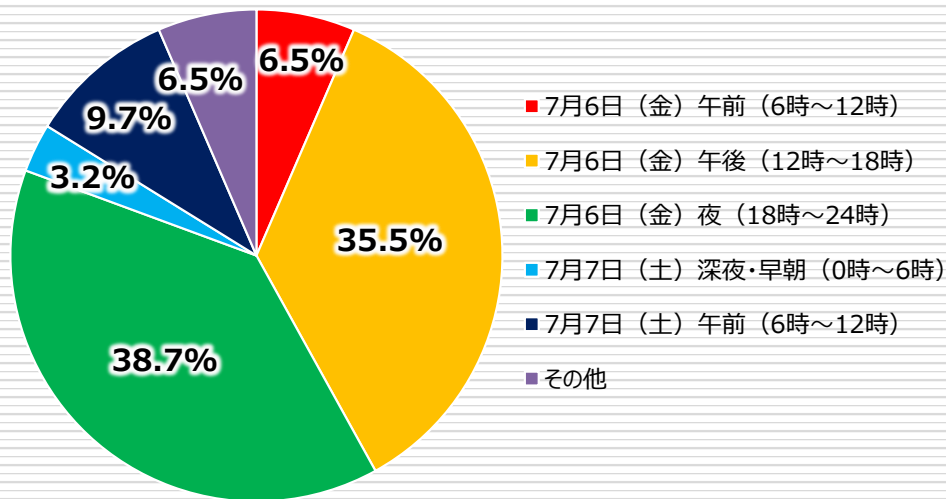


■前問で避難した人（3.6%）のうちで、避難したきっかけは「避難勧告・指示の発令」が67.7%と最も多くなっており、一定の発令の効果があがえます。

全体	避難勧告・指示の発令	近隣住民が避難したから	家族からの避難の呼びかけ	近隣住民からの避難の呼びかけ	地域の自主防災組織からの呼びかけ	降雨状況を見て	河川の水位上昇を見て	テレビやインターネット等での取り上げ	自宅への浸水や土砂流入	その他
31	21	6	7	4	2	12	9	7	1	1
100.0%	67.7%	19.4%	22.6%	12.9%	6.5%	38.7%	29.0%	22.6%	3.2%	3.2%

Q19) 平成30年7月の豪雨についてお尋ねします。いつ避難をしましたか？

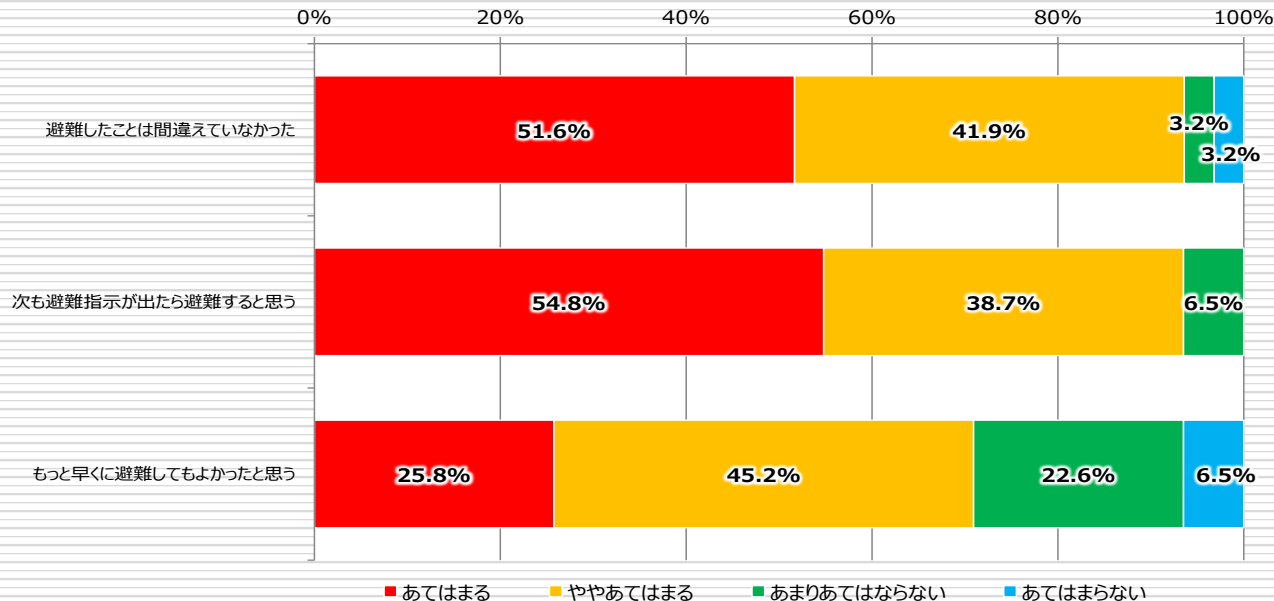
- 避難した時間帯は「7月6日（金）18時～24時」が最も多く、38.7%となっており、次いで、7月6日（金）12時から18時の35.5%となっており、Q5）の雨の降り方の感じ方で猛烈な雨を感じた結果と整合しています。
- ほとんど（80.7%）の人が7月6日（金）の間に避難しています。



全体	7月6日（金） （6時～12時） 午前	7月6日（金） （12時～18時） 午後	7月6日（金） （18時～24時） 夜	7月7日（土） （0時～6時） 深夜・早朝	7月7日（土） （6時～12時） 午前	その他
31	2	11	12	1	3	2
100.0%	6.5%	35.5%	38.7%	3.2%	9.7%	6.5%



Q20) 平成30年7月の豪雨についてお尋ねします。避難したことについてそれぞれお答えください。



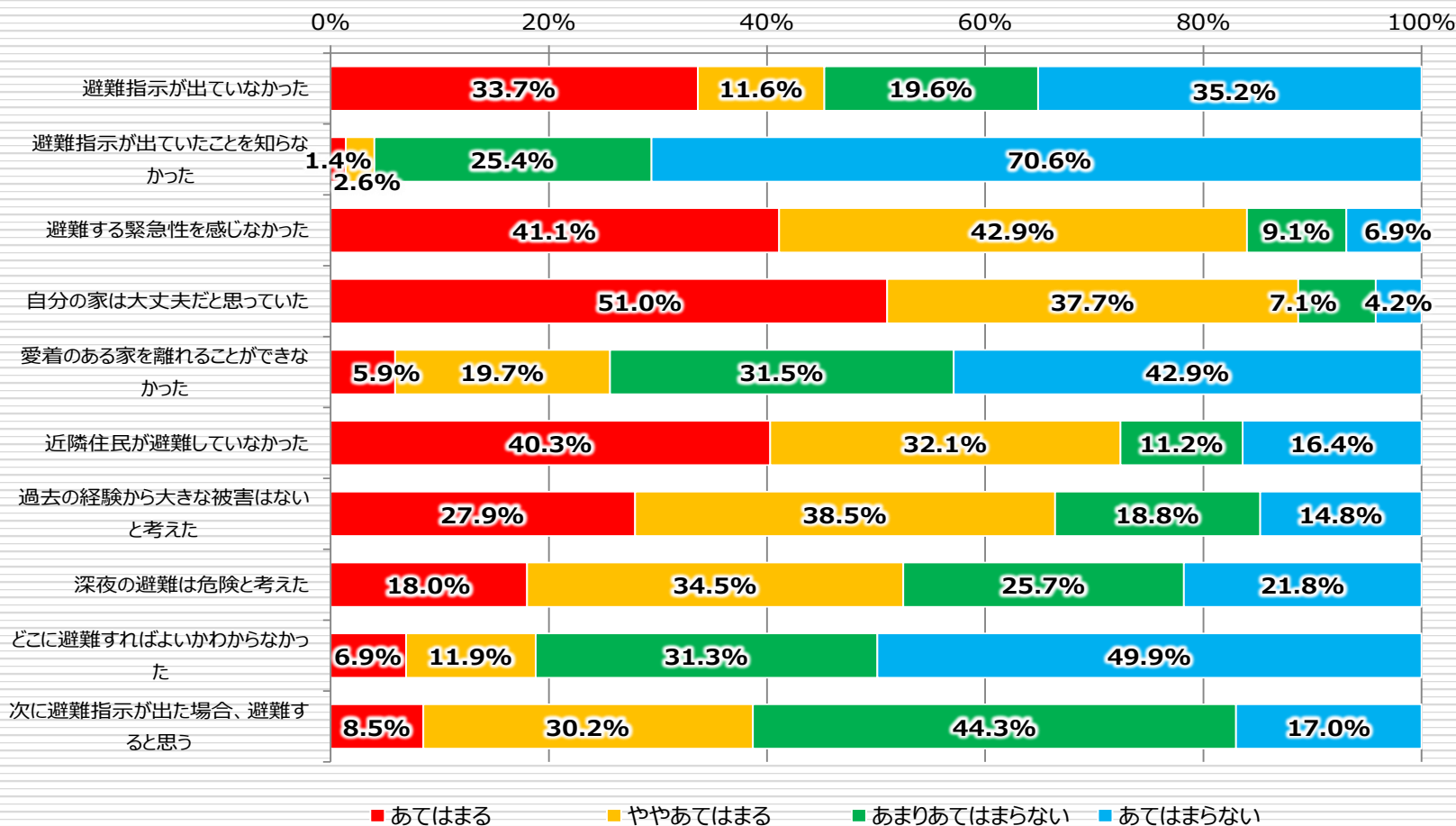
- 避難した人93.5%（あてはまる・ややあてはまるを回答）の人は、「避難したことが間違えていなかった」と回答しています。
- また、「次も避難指示が出たら避難すると思う」が93.5%（あてはまる・ややあてはまる）となっており、避難したことに対して肯定的（後悔がない）であることがうかがえます。

	全体	あてはまる	ややあてはまる	あまりあてはならない	あてはまらない
避難したことは間違えていなかった	31 100.0	16 51.6	13 41.9	1 3.2	1 3.2
次も避難指示が出たら避難すると思う	31 100.0	17 54.8	12 38.7	2 6.5	0 0
もっと早くに避難してもよかったと思う	31 100.0	8 25.8	14 45.2	7 22.6	2 6.5

Q 2 1) 平成30年7月の豪雨についてお尋ねします。今回、避難しなかった理由について、ご自身の考えに近いものをそれぞれお答えください。

■ 避難しなかった理由については、「自分の家は大丈夫だと思っていた」が51.0%と最も高く、次いで「避難する緊急性を感じなかった」が41.1%となっています。

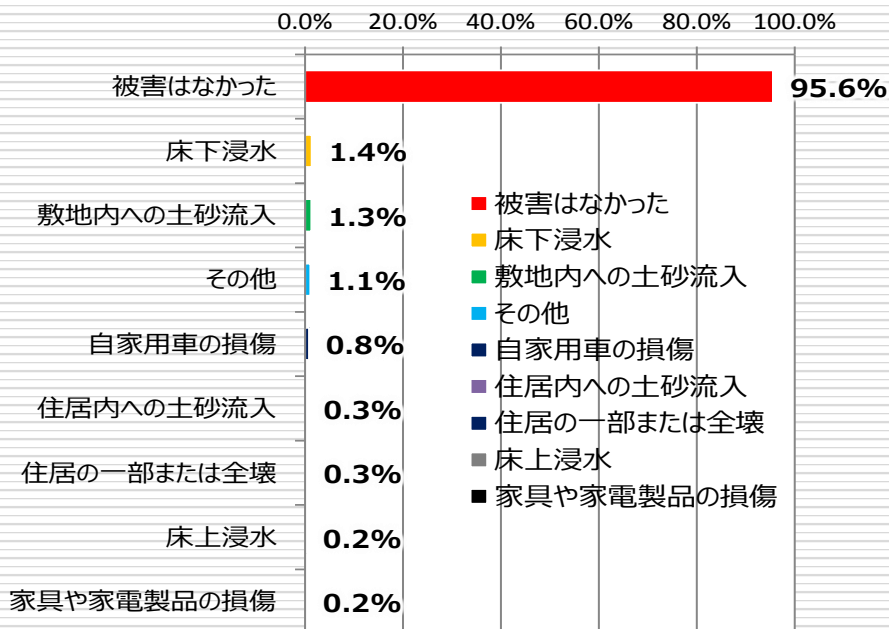
■ 自分は大丈夫といった過信（正常性バイアス）や間違った自己判断による避難の遅れ等が懸念されます。



Q 2 1) 平成30年7月の豪雨についてお尋ねします。今回、避難しなかった理由について、ご自身の考えに近いものをそれぞれお答えください。

	全体	あてはまる	ややあてはまる	あまりあてはまらない	あてはまらない
避難指示が出ていなかった	623 100.0	210 33.7	72 11.6	122 19.6	219 35.2
避難指示が出ていたことを知らなかった	623 100.0	9 1.4	16 2.6	158 25.4	440 70.6
避難する緊急性を感じなかった	623 100.0	256 41.1	267 42.9	57 9.1	43 6.9
自分の家は大丈夫だと思っていた	623 100.0	318 51.0	235 37.7	44 7.1	26 4.2
愛着のある家を離れることができなかった	623 100.0	37 5.9	123 19.7	196 31.5	267 42.9
近隣住民が避難していなかった	623 100.0	251 40.3	200 32.1	70 11.2	102 16.4
過去の経験から大きな被害はないと考えた	623 100.0	174 27.9	240 38.5	117 18.8	92 14.8
深夜の避難は危険と考えた	623 100.0	112 18.0	215 34.5	160 25.7	136 21.8
どこに避難すればよいかわからなかった	623 100.0	43 6.9	74 11.9	195 31.3	311 49.9
次に避難指示が出た場合、避難すると思う	623 100.0	53 8.5	188 30.2	276 44.3	106 17.0

Q 2 2) 平成30年7月の豪雨についてお尋ねします。ご自身には被害はありましたか？



■被害がなかった方が95.6%とほとんどでした。

■一方、4.4%の人は何らかの被害にあわれており、被害にあわれた方のなかで最も多かったのは「床下浸水」でした。



全体	床下浸水	床上浸水	敷地内への土砂流入	住居内への土砂流入	住居の一部または全壊	自家用車の損傷	家具や家電製品の損傷	その他	被害はなかった
871	12	2	11	3	3	7	2	10	833
100.0%	1.4%	0.2%	1.3%	0.3%	0.3%	0.8%	0.2%	1.1%	95.6%